

# 六葉会 会報

Vol.24



関東学院六浦中学校・高等学校同窓会

<http://www.rokuyoukai.com>



AKIKO OBA

表紙を飾る

版画家 **大庭 明子**さん (23回生)

カラフルでパワフルな作品で  
幅広く活躍する大庭さん!  
みなさんの応援、  
よろしくお願い致します。

●大庭さんのホームページはこちら。

<http://www.obaakiko.com>

「大庭明子の電子空間」

## 略 歴

- 1956 神奈川県逗子市に生まれる
- 1975 関東学院六浦高校卒業 (23回生)
- 1978 ~ '97 神奈川版画アンデパンダン展
- 1979 東京造形大学絵画科版画研究室卒業 (教授:馬場栲男)
- 1980 ~ '89 神奈川県美術展 (受賞 '80, '82, '83, '84, '86)
- 1981 ~ '88 日本版画協会展 (受賞 '87)
- 1981 ~ 個展 (ほぼ毎年各地にて) ('96, '97, '99 を除く毎年)
- 1982 版画〈期待の新人〉展 (りゅう画廊)
- 1984 イビザグラフィック展 (スペイン)
- 1985 文化庁芸術家国内研修員 (指導:磯見輝夫)
- 平和への青年芸術家展 (ポーランド)
- 1987・'91 Small Graphic Forms, Lodz Poland (ポーランド)
- 1987 第21回現代美術選抜展 (文化庁)
- 1989 Petit Format de Papier = Japon 1989 (ベルギー、フランス)
- 1992 横浜の作家たち (横浜、ルーマニア:コンスタンツァ、ブカレスト)
- 1994 ビトラ国際版画トリエンナーレ (マケドニア:ビトラ)
- 2008 絵本「ことばのくにのマジックショー」  
(アリス館、ことば:中川ひろたか、手品:大友剛)の絵を描く
- 2009 絵本「にくまん どっち?」(アリス館、刈田澄子:文)の絵を描く

## C O N T E N T S

|                              |     |                       |    |
|------------------------------|-----|-----------------------|----|
| 大庭明子さんプロフィール .....           | 表 2 | 復興支援ボランティア報告 .....    | 10 |
| ご挨拶 .....                    | 1   | クラブ紹介 鉄道研究会 卓球部 ..... | 12 |
| 校長挨拶 .....                   | 2   | 同期会レポート .....         | 14 |
| 山内先生 追悼文 .....               | 3   | 親睦ゴルフ大会報告・告知 .....    | 16 |
| 坂井雅澄先生追悼演奏会を終えて .....        | 4   | 60回生学年幹事・2012年六浦祭と    |    |
| 六浦祭とホームカミングデー .....          | 6   | ホームカミングデー告知 .....     | 17 |
| 恩師動画 六葉会ホームページで懐かしい先生に ..... | 8   |                       |    |

# 「母校を支える力」

六葉会会長 永野 肇（8回生）



2012年3月1日に第60回卒業式が行われ172名が新しく六葉会のメンバーに加わりました。心から歓迎いたします。さて、東日本大震災から1年が

過ぎました。津波による被害、そして時間が経つとともにその深刻さが増す原発災害の問題、復興の見通しが中々見えてきません。関東学院関係者の中にも直接被害に遭われた方、間接的に影響を受けた方がいらっしゃると思います。心からお見舞い申し上げます。

2011年度の活動は、30数年ぶりに行われた全員総会（5月21日）からスタートしました。同時に東日本大震災の復興支援をということで「みんなのコンサート」を実施しました。

六浦キャンパス小中高の生徒、父母会、同窓会が短い準備期間の中で一致協力し、すばらしいコンサートになりました。新たな交わりが与えられたことは感謝です。

昨年に続き母校の文化祭（六浦祭）に合わせて開催されたホームカミングデーも学校、生徒会の協力により、礼拝堂でのセレモニー、会議室での和やかな懇親会ととてもいい会でした。在校生の活動の様子を見ていただく機会でもあり、今後も継続できれば幸いです。

その他のことは会報誌でご覧下さい。そして一人でも多くの卒業生が様々な企画に参加し親交を深めていただきたい。そのことが六浦中高を、関東学院を支える力の一端につながるのではないのでしょうか。

# 案山子

関東学院六浦中学校・高等学校校長

河合 輝一郎



さだまさしの「案山子」を自分が初めて聴いたのは、関東学院に勤める年の1971年3月であったと思う。それまでは家族に囲まれての生活であったが、生まれて初めて家族を離れて下宿生活をしなければならなくなった。一人で自由気ままに生活ができるという期待感と、ちよつびりの寂寥感を持つて京急富岡の4帖半のアパートに引っ越したわけだが、手伝いをしてくれた学生時代の仲間が去り、途中から降り出したトタン屋根を打つ雨音を聞いているうちに、何とも言えない孤独感に苛まれた。ラジオでも聞いて(その時分テレビは持っていなかった。)気持ちに慰めようとスイッチをひねったその時に、「元気でいるか 街には慣れたか 友達できたか」の歌詞とメロディを耳にした。子どもを都会に送り出した父親の気持ちを歌っているのだから、聴いているうちに涙がとまらなくなったのを今でも覚えている。

「山の麓 煙吐いて列車が走る 風が雑木林を駆け落ちて来る 銀色の毛布つけた田圃にぼつり 置き去られて雪をかぶった案山子がひとり お前も都会の雪景色の中で 丁度あの案山子のように 寂しい思いしてはいないか 体をこわしてはいないか」

自分の子どもが都会の中で孤独な思いをしてはいないか、元気でいるのかを案じる父親の気持ちが痛いくらいに自分の心に突き刺さった。それから40年余、学校の教師としてあと何年かで定年を迎える年になったが、子どもを思う親の気持ちはその間、何十回も見てきた。

定時制の受け持ちクラスの女子生徒が問題を起こして、学校を辞めなければならなくなった時、自分の目の前で退学届を書いていた母親が、涙をこぼしながら「それでも私はこの子を信じます。この子を支えるのは私しかないのだから」と言った一言が忘れられ

ない。教師としての力不足を痛切に感じさせられた言葉であった。

4月という月は学校にとって新しい出発を意味する。それぞれの生徒が期待と希望を胸に進級・進学をして行くのだが、親御さんの気持ちはそれだけではない。子どもの成長を願いながらも、新しい環境の中でうまくやっていけるかどうか心配の種は尽きることがない。

「手紙が無理なら電話でもいい。金頼む」の一言でもいい お前の笑顔を待ちわびる おふくろに聴かせてやってくれ」

子どもの声を直接聴くことが大きな慰めにつながるの言うまでもない。まして私たちは教育に携わるプロフェッショナルである。私たちは様々な子供たちの声を絶えず耳にしている。その声を通して子どもたちの思いを知り、また親御さんの思いにまで心を砕いていかなければならないと思う。2012年度が始まった。六浦中高に来て3年目を迎える。一人ひとりの子どもたちに、人としての基本的な営み、人としてどうあるべきなのかを今年も常に問いかけていきたいという思いを新たにしている。皆様の今まで以上の御支援とご理解、ご協力をお願いいたします。

# 山内善之先生

## 追悼文

平和学園小学校教頭  
佐藤 陽明



山内先生は昨年2011年3月29日の早朝、満80歳の誕生日の二日前、喘息の発作でお亡くなりになった。二日後の誕生日には山内先生の息子さんと一緒にお祝いする予定だった。山内先生が教員を退職なさってから、15年間にわたり月一回、山内先生邸にお邪魔し山内先生と奥様とお会いし生き方を学ばせていただいていた。

関東学院六浦中学校・高等学校に奉職した42年間は生徒の指導と同僚への配慮に費やされた。山内先生の教えは明確でした。学校管理職についてとの問いに、「教職員は夢と希望を持ち児童、生徒に接しないと子どもたちに夢や希望を与えられない。管理職は先

生が夢と希望を持てる環境をつくるのが仕事。」

山内先生のお母様の教えは人が生きるための3つの教えでした。一人っ子の山内先生に対して、親がいなくてもひとりで生きていけるようにと厳しく手取り足取り教えてくれたのが食のこと。「母は飯の炊き方、魚の煮方、味噌汁の作り方を教えてくれた。」

小学3年生の少年山内先生が習った親の教えが見事に花開くのが退職後。御病気の奥様を看病しながら、お母様から教わった三つの教えを実践していた。自分が訪れたときも毎回先生自ら台所に立ち料理し振る舞ってくださった。鰯入り湯豆腐には昆布で出し

をとる本格派。(煮魚・味噌汁の応用)さらに『ものには魂がある。』と語り、ご自宅にある掃除機は修理に修理を重ね、ガムテープで壊れた部分を補い最後の最後まで使用していた。

退職後の日課が和算研究。現役の頃を振り返り、『今のようにな、勉強していたらもつとわかりやすく生徒に教えることができた。生徒に申し訳ない。』と悔しがっておられた。最後まで生徒を中心とする生き方を貫き通した。

山内先生のご冥福をお祈りします。

### ■山内善之先生の経歴

- 昭和6年3月31日生まれ
- 昭和13年4月 横須賀市立尋常小学校入学
- 昭和19年4月 神奈川県立横須賀中学校入学
- 昭和23年4月 学制改革により 神奈川県立横須賀高等学校に移行
- 昭和25年4月 東京理科大学理学部第一部数学科入学
- 昭和29年3月 東京理科大学理学部第一部数学科卒業
- 昭和29年4月 関東学院六浦中学校高等学校教員
- 平成6年4月 関東学院六浦中学校高等学校教頭
- 平成8年3月 関東学院六浦中学校高等学校定年退職
- 平成23年3月29日 天に召される。

# 坂井雅澄先生

## 追悼演奏会を終えて

6回生 加藤 武

音楽を愛する沢山の卒業生に慕われつつ逝かれた坂井雅澄先生の追悼演奏会が、昨年9月10日紅葉坂の神奈川県立音楽堂にて、多くの卒業生と同僚の先生方が参集されるなか開催されました。

坂井先生は1995年春、グリークラブ合宿中に病に倒れられ、車椅子での生活を余儀なくされることになりましたが、半年後にはグリークラブの定期演奏会のステージに立たれ、見事に復活を遂げられました。教員退職後も多くの合唱団の指揮をされ、その活動の様が「NHKラジオ深夜便」で全国に紹介されました。4年前の2008年関東学院創立125周年記念コンサートのために結成された

祝祭合唱団の指導に当たられ、4ヶ月という短い期間でモーツァルトの「戴冠式ミサ曲」を仕上げました。この混声合唱団は当初女声2名男声25名というアンバランスな団員構成でしたが、先生を慕うグリーOGが50名も集まり、その中には14回生の小池啓子さん（旧姓澤野）や32回生の横地康子さん（旧姓吉田）などプロで活躍されている方々がボランティアで指導のお手伝いをされ、10月6日のプレコンサートを成功に導きました。2009年10月7日の記念コンサート本公演に向けての練習中に坂井先生は病に冒され、代振りを横地さんに任せられ入院されました。記念コンサート本公演までに退院は叶いみせんでしたが、翌2010年1月9日に行

われた「横地康子ソプラノリサイタル」にはこの祝祭合唱団65名を率いて賛助出演しモーツァルトの「莊嚴ミサ曲」を指揮されました。この時アンコールで演奏されたモーツァルトの「ヴェスプレ」は味わい深い名演奏で多くの音楽愛好家から絶賛を博しました。そしてこの演奏会の9日後に坂井先生は遠くに旅立たれました。





音楽堂での追悼演奏会では、前半に横地康子さんのソプラノ独唱で、先生との思い出深い音楽の授業で習った「カロー・ミオ・ベン」やグリで指導を受けたモーツァルトの「アレリヤ」と、オペラアリアを、「和製フレーニ」とよばれる潤いのあるイタリア仕込みの本格的なベルカント唱法のリリコ・ソプラノで聞かせてくれました。追悼演奏会の後半は祝祭合唱団から生まれた六葉会メンバーで構成された混声合唱団「Bella Voice」が、坂井先生が永らくご指導されていた名門混声合唱団「鎌倉コーラル」の合同で先生が愛されたモーツァルトのミサ曲を2曲、先生が亡くなる一週間前に「今度はこれをやろう」と云われた「三位一体の祝日のミサ」を横地康子さんの指揮で。「レクイエム」を先生の芸大での同級生の児島百代さんの指揮で演奏され、深い感銘とともに演奏会を終えました。

この追悼演奏会を開催するにあたり、六葉会の後援と常任幹事会のメンバーの多大なご支援を頂きました事を、感謝申し上げます。尚、この演奏会のDVD・CDをご入用の方

はお申し出ください。また、混声合唱団「Bella Voice」と一緒に歌いたい方は歓迎します。練習は月2回土曜日午後フォーラム南太田など数会場で行っています。曲はヴィヴァルディの「グロリア」全曲とヘンデルの「メサイア」抜粋で、第一回定期演奏会は2013年1月12日みなとみらいホール・小ホールで行います。また指揮者でソプラノの横地康子さんのリサイタルが2012年7月23日夜 みなとみらいホール・小ホールで行われます。皆様よくご存じのイタリア古典歌曲と最も得意とする「イル・トロヴァトーレ」のレオノーラなどオペラアリアを沢山歌います。



横地康子 リリコソプラノリサイタル 7/23  
連絡先 090-6343-0166  
Email : t.incantatio@nifty.com



# 六浦祭とホームカミングデー

六葉会副幹事長 萩原 孝(26回生)

2011年11月2日(水)、3日(木)祝に六浦祭が開催されました。私が六葉会の常任幹事となつてからは毎年参加していますが、今回もとても楽しいものでした。特に3日は休日とあつて生徒のご家族はもちろん、卒業生も多く一時はごったがえして中庭では歩くことも大変なほどでした。

2010年に完成した新校舎の二階に、毎年恒例の「六葉会の部屋」を用



礼拝で永野会長からご挨拶

意し、皆さんのお越しをお待ちしますが、近年は特に若い卒業生もたくさん訪れていただけるようになり嬉しい限りです。毎年卒業アルバムを展示していますが、来場された方々が該当学年のアルバムを懐かしそうに見たり、先生方の若いころの写真を見たりして楽しんでいきます。そのアルバムも来年には60冊にもなり展示するのもそろそろ難しい感じです。六葉会ではアルバムをデジタル化して画面で楽しんでもらう方法など検討・準備していますので今後新しい「六葉会の部屋」に生まれ変わるのをご期待下さい。私はこの六葉会の部屋で、今までも多くの先輩方や後輩と知り合い、素敵なご縁をいただいています。他にもそういう出会いがたくさん生まれていることでしょう。そう考えると卒業後の母校ってとってもいいものだと思います。ぜひ皆様も今年の六浦祭へ

## HOME COMING DAY



六葉会のスタッフです！  
お疲れ様でした～♪



先輩、お帰りなさい！



お出かけください。きつと素敵な出会いが待っています。

六浦祭のそれぞれの催しも年々進化しているように感じます。中庭のステージで行なわれているライブやコント(?)など面白い見入っしまい自分の現役時代と比べると時代の変化や最近の若者のセンスの良さなどがうかがえて、見ている者をあきさせません。楽しみのひとつにもなりますが、何年か前には現役生徒として私たちを向かえる側にいたはずの子どもたちが、卒業生として後輩たちを見に来て一緒に楽しんでいる姿は時間の流れを感じさせてくれます。そんな光景を見ると、毎日何も考えずに通っていた母校がその数年間だけのものではなく、もっと大きな価値、学校が生徒を育て、同窓が仲間を支え、



在校生のパワーはすごい!

卒業生が学校、生徒たちを見守り応援することこそがとて大きな価値に思えてきます。

3日には第7回ホームカミングデーが開催されました。六浦祭に合わせた開催は今年で2回目となりましたが、中心となる35〜40回生以外の卒業期の方々もたくさん参加され懇親会の参加は約70名となり会場は今年もいっぱいになりました。私の卒業期に初めて使用された礼拝堂で行われた式典や、聖書、讃美歌もとても懐かしく感じます。またホームカミングデーに参加された方々の中から学年同窓会の企画が出てくるようになったこともよく聞くようになり、ホームカミングデー開催の意義も感じます。六浦祭との同時開催で現役生徒たちの催しも、ホームカミングデーに参加された級友と一緒に観て楽しさも増しているようでした。ホームカミングデーの楽しさは参加して初めて分かることも多く、他の卒業期の方々との新しい出会いや意外な繋がりなどもぜひ体験してみたいと思います。次回のホームカミングデーも六浦祭同時開催で同窓にとって楽しい場となるよう企画したいと思います。



ティーパーティのあとは  
全員で記念撮影!





# 六葉会ホームページで

## 懐かしい先生に…



国近先生



佐々木先生



相原先生

副会長 高橋 浩司(30回生)

六葉会では、同窓生に喜んで頂ける事業は何か。毎年行っている事業でもこれまでのやり方でいいのか。もっと工夫はできないかと自由な発想で議論して参りました。その結果、少しずつではありますが、事業に反映させることができましたものもあります。その一つが、恩師の動画を六葉会ホームページに掲載する事業であります。今回は、紙面の関係で、ほんの一部しか掲載できませんでしたが、詳細は、六葉会ホームページをご覧ください幸いです。

第一号は、教員OB会の幹事長であります国近高龍先生に登場願いました。2011年9月24日 母校図書

館にて15時から約一時間、インタビューにお答え頂きました。  
先生に対する質問は、「大学時代の事」、「関東六浦に就職された経緯」、「鎌倉にお住まいになった経緯」等々沢山お話を頂きましたが、抜粋して掲載させて頂きます。

六浦で、最初に受け持たれたのは？

国近先生 ●僕が入った年は、中一、中二の国語を受け持たされた訳。その中一が10回生で、中二が9回生だった。最初は担任もなかったんだけど、翌年その9回生の担任を中三の時やって、で11回生の担任をしたりして12回生が中三になった時に僕が持った訳なんです。四年間。その12回

生を最初にずっと高校まで。  
13期も卒業生を送り出して沢山思い出があると思いますが、特に思い出に残っている学年は？

国近先生 ●一番最初は、やはり四年間持ったし、最初だから一番…何も分らないでやってたからね。そういう意味じゃ、色々失敗もあったし、試行錯誤しながらやってたんで、まあ一番印象に残っている学年かな。  
思い出のエピソードはありますか？

国近先生 やっぱ一番印象に残っているのは、やっぱり退学した子ね。どうしても退学させられてしまった子っていうのは、どうしようも出来なかった自分の無力感みたいなものが、どうしても残っちゃって、もう少し何とかならなかったかなって、そういう事は…考えるね。

本当に良い先生に恵まれていたと再確認したインタビューでありました。国近先生ご協力ありがとうございました。

トッパッター国近先生のご紹介もあり、二番手で登場頂いたのは、佐々木智子先生です。2011年12

月21日、母校図書館にてインタビューを行いました。「先生になった経緯」、「恩師、島田先生の事」、「担任を持っていた頃の思い出」等々沢山お話を頂きましたが、抜粋して掲載させて頂きます。

### 関東学院の思い出は？

佐々木先生 「(前略、関東学院には) 本当にお世話になりました。もし、他の学校に行っていたら恐らく、大学に行くことはなかったし、教員になることもなかったし、もっと違う世界に住んでいたと思います。」

佐々木先生 「(中略) まあ、力及ばず、あの、そう言う立派なことは出来たとは言えないんですけど、例えば何があるうとも、凄い進学校に比べれば、実績がどうであろうとも、あの、この学校は、そこがやっぱり凄かったなって言うのはもう、私自身が本当にこう一生を抱えて貰ったっていうかね、もう関東学院と切り離したら、あの教員を四十三年間勤めたからということじゃなくて、切り離したら私の一生は、全く別者だったと思いますよね。本当に凄い学校に入れて貰えたなと言うのはあり

ますね。」

佐々木先生は、3回生の卒業生でもあり、苦学されていた頃のお話しもあつたりとインタビューが、思わず涙しながらの感動取材となりました。先生ありがとうございます。

### 三番手は、相原寅雄先生です。

2012年1月21日、土浦のご自宅を訪問し、インタビューを行いました。「ご出身や子供の頃の話し」、「学生時代の話し」、「戦後中華街でコック修行していた頃の話し」、「関東六浦に来られた経緯」等々沢山お話し頂きましたが、抜粋して、掲載させて頂きます。

### 教員になってどうでしたか？

相原先生 「色々なね下積みをしてきたんで、教員になった当初もね、辛いとは思わなかった。その前にね、小学校の教員をアルバイトでやっててね、一年とちょっとやってますね。で、まあ僕のいた小学校はね。悪太郎ばかりでね。昔、江古田といましてね、現在は、山元小学校になったんですけど。」

### 関東六浦の印象は？

相原先生 「そうですね、六浦の：まあ、僕のいた当時の六浦と言うのは、クラスによつて、出っ込み、引っ込みありますね。まあ、わりと大人しいクラスもあるし、また、ちょろちょろ悪さするのもあったけど。他の学校から比べてみると、よかつたんじゃないですかね。生徒自身は、やっぱし、関東と言うのは大人しい子が多かつたね。」

土浦のご自宅に訪問しての取材でしたので、奥様にもご面倒をお掛けしましたが、大変明るい素敵な奥様で、時々、先生の答えに合いの手を入れて下さり、終始、なごやかな取材となりました。先生、奥様ありがとうございます。

- ◎国近先生に対するインタビュー 高橋 浩司 30回生
- ◎佐々木先生に対するインタビュー 横地(吉田) 康子 32回生
- ◎相原先生に対するインタビュー 伊藤 由季子 23回生
- ◎動画撮影・編集 野澤 一良 20回生
- ◎ホームページ編集協力 森(長嶋) 智子 41回生

## 「次の世代につなげるきっかけを」

寺嶋 健一（33 回生）

2011年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖地震とそれにとまう東日本大震災が発生しました。多くの尊い命が失われ、被災された方々の生活は未だ復興途上にあります。

「復興支援に何か出来ることはないか。ひとりが出来ることは小さいが繰り返すこと、続けていくことが大きな力につながる。」と話す本校の復興支援ボランティアの活動の中心人物となった中田努先生（34 回生）



にお話を伺いました。その被災地への思いを持ち続けるきっかけとなる活動の輪が本校

サッカー部の有志から少しずつではありますが、一歩ずつ前に進む流れを生んでいます。

ちょうど昨年の六浦祭の時、神奈川新聞



2011年11月2日に「希望の缶詰」を模擬店で売る場面が紹介され「ほかの生徒や来場者に現地のことを知ってほしい」、「（ボランティアに行つて）まだ手つかずの場所が残っていることがショックだった。人手も時間も足りないので活動を継続したい」、「缶詰の販売を通して、被災地の現状を伝えたい。またボランティアにも参加したい」の記事は記憶に新しいです。この活動は関東学院ニュースN.O.

43号でも既に取り上げられており、現地ボランティア支援・コーディネーターを行っているNPOとの巡回会い、2011年夏のサッカー部の有志による被災地支援、そして被災した缶詰販売のことが詳細に紹介されています。

このボランティア活動に参加した生徒たちの心境はどうであったのでしょうか。未曾有の災害をこれほど鮮明な映像と記録で残されたことは人類史上かつて無いことです。インターネットの動画サイトには数え切れないほどの記録が残されています。しかし、現実はその地で起きていることを体で感じることは、想像できないほどの感覚の違いを生んでいるに違いありません。

報道で紹介されている被災地以外にも手付かずの場所も多く、生徒たちには瓦礫撤去、排水溝の掘り出しなどを行っています。瓦礫撤去では映像では伝わらない「臭い」に悩まされている作業で、「臭い」は冷凍倉庫から流された魚の腐敗だったとのこと。排水溝は掘っても掘っても進まず、途方にもない作業の繰り返しだったと聞きました。



その涙ぐましい活動が冬休みのボランティアにつながりました。参加した生徒は24名の高校生、女子が7名含まれます。全てが流された現実と全てに満たされている日常とのギャップに愕然となったそうです。

ひとりの力はわずかですが、もっと多くの支援が長い時間にわたって必要と感じ、このまま忘れ去るようなことがあってはならないという気持ちに変化したと聞きました。今回は瓦礫撤去作業のほか、心のケアとなる茶話会に生徒も参加しました。わずかな間でも話をし、作業をして、いやなことを忘れたらいい、そんな支援も高校生の気持ちに焼き付いているようです。またNPO法人「遠野まごころネット」とのコーディネートもあり、

2011年12月23日から25日クリスマスにかけて開催され「サンタが100人やってきた!」プロジェクトにも参加しています。なんとこのプロジェクト

クトには総勢延べ450人のサンタが登場して、配布したプレゼントは18,400個。もちろんサンタ衣装は自前とのこと。

参加した多くの生徒たちの感想は「また支援にきたい」という気持ちにつながっています。今後、春休みも復興支援ボランティアを企画して、この災害を忘れないためにも、被災地が被災地と呼ばれるまですべての復興支援ボランティアを風化させない流れを作っていきたいと感想文に綴っています。生徒たちは、この活動が続く限り、末永く次の世代に支援の力となるように伝えてほしいものです。



## 私たちにできること



六葉会では震災があったことを忘れないようにしたいと思い、5月の総会時に小学校から高校までの児童や生徒、そして保護者会にも呼びかけてチャリティーコンサートを実施しました。その様子は関東学院学報でも「すごいぞ!六浦!」という記事で取り上げていただきました。

3月に開始した募金は会議などがあるたびに集められ、9月に日本赤十字を通して被災地にお送りしました。今後も10年くらいは継続して募金を行なおうと思っています。



# 鉄道研究会

藤田 伸哉 (18回生)



「鉄道研究会」と聞いても、「在校中そんなクラブ有ったかな?」と多くの卒業生は思いになるでしょう。この「鉄道研究会」は平成13年に創部された「SCS (Student Computer Service)」が前身で、そのSCS部員の電車マニアの生徒が集まりスタートした愛好会で現在の部員は中高生合わせて10人です。主な活動としては鉄道模型コンテ

ストに出場するために大規模なNゲージオラマを製作しています。何となく言ってもその実績は平成22年に開催

された鉄道模型コンテストの甲子園と言われる「第2回全国高等学校鉄道模型コンテスト」(参加25校)に於いて優勝したことです。そして翌年の第3回コンテストでは優勝を逃したものの「技能賞」を獲得しています。

また、普段の活動としては、平成23年5月に富岡こどもログハウスに於いて「鉄道模型展&ミニ鉄道に乗ろうフェスタ」、同年7月には関東学院六浦幼稚園の「おりーぶ・チャリティーおーぶんひろば」、関東学院六浦小学校の「夏の夕べ」、同年11月には中高での「六浦祭」に出展しました。各会場とも作製したジオラマの展示と5インチゲージの線路を敷設して見学に見えた多くのお子さん達が乗車し楽しめたとのことでした。夏休みには3泊4日の日程で名古屋でリニア鉄道館の見学、京都の叡山鉄道の車庫見学、阪神電気鉄

道の車庫見学の夏合宿を実施しました。

現在は今年8月に東京ビッグサイトで開催される第4回コンテストでのモジュール部門と一帖コンテスト部門のダブル制覇を目指して、よりリアルなジオラマを製作しようと全部員が一丸となり頑張っています。過去の展示ジオラマ(動画)をご覧になりたい方はYouTubeで観ることが出来ます。是非ご覧になってください。4月には現在の「愛好会」から「同好会」に昇格することとが生徒会で承認されたとのことでした。部員たちにとってこの昇格がジオラマ製作のより一層の励みになるでしょう。



# 卓球部

石井 眞一 (18回生)



今回は歴史ある卓球部を紹介します。

顧問は鈴木一広先生と長塚愛司先生。高校2年生の星野大地部長をリーダーに総勢20名の男子部員が練習に励んでいました。顧問の両先生は「練習には口出しをせず生徒の自主性に任せる」を指導方針としており上級生が下級生を指導しながら練習をしています。

練習は月曜日を除き毎日。日頃の練習の中で、部員をグループ分けし、部内でのランキングを付けると同時に色々な相手と対戦する実践的なリーグ戦形式で練習を行っています。また、中高一貫校ならではの中高合同練習を行い中学



生のレベルアップを目指しているそうです。体力向上として1日おきにグラウ

ンド外周を走り込んで足腰を鍛えています。

春と夏には3泊4日の学内合宿を行っており、多くのOBから多大な差し入れがあるとのこと。「この紙面をお借りしてお礼をいたします」と星野部長の弁です。2012年度は「神奈川県高校総体 男子団体ベスト8位」を目標に日々励んでいます。



す。卓球部のOB、先輩の方々合宿時の差し入れ、大会当日の応援激励を宜しく願います。

取材が終わる退館の際には部員の皆さんから「ありがとうございました」と挨拶の見送り。中高時代に部活の練習に励んでいた熱かった青春時代の思い出が蘇りました。

## ▼2010年度の主な戦績

神奈川県高校総体

男子団体ベスト16

神奈川県中学校学年別大会

1部1年男子の部優勝

神奈川県私学中学校卓球大会

男子団体第3位

県私学中学校卓球大会

1年男子の部優勝

金沢区中学校卓球大会

シングルス優勝/準優勝/第3位

▼2011年の主な戦績

神奈川県高校総体

男子団体ベスト32

神奈川県高校新人戦

男子団体ベスト32

横浜地区高校卓球大会

男子団体ベスト第8位

金沢区中学校卓球大会

シングルス 優勝/準優勝/第7位





# 同期会レポート

今年度もいろいろな学年で同期会が行われました。  
懐かしい笑顔が生徒時代の表情に変わり、会場のあちこちで先生方  
との歓談も弾みます。

今年度開催された同期会のいくつかをご紹介します。いただきます。

六葉会には住所録の提供や通信費補助金のサポート体制もあります。  
同期会をやりたいがどうしたら良いのかわからない方は是非六葉会までホームページの連絡メールでご連絡ください。お手伝いをさせていただきます。

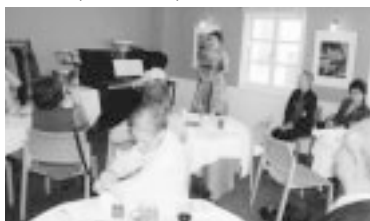
## 第45回生

2011年6月25日に横浜クルーズクルーズ（スカイビル27F）で第45回生の同期会が行われました。ここは交通の便もいい上、眺望も素晴らしい、最近では同期会に良く使われるおなじみの会場ですね。国近先生、加藤先生、萩原先生、安達先生の4名にご参加いただき盛会となりました。

## 第3回生

2011年10月19日に相模湾の潮風を感じる葉山ラ・マール・ド・チャヤで三暉会を開催しました。  
竹内先生、伊藤清先生のご出席を

いただき参加者は39名となりました。我々は今年度中に所謂後期高齢者になる複雑な時期ですが、久しぶりの顔に気分だけは高校生に戻り、予定時間を大幅に超えて、笑い声の絶えない楽しい話し合いの時を持つことが出来ました。  
更に、32回生の横地康子さんのご好意で思い出深い讃美歌等を歌っていただき、心の潤うひと時を持つことができました。参加者一同感謝しております。  
次回は2年後、喜寿の祝いの会になります。元気に参加できるようにお互いに頑張りましょうと約束して別れました。



## 第4回生

2011年11月11日 11時30分  
横浜ランドマークタワー、70階レインボールームにて、村松信雄先生、伊藤清先生はじめ、計39名の出席。

3クラス中一つが高校進学の際に新入生で、あとの二つは中学からの進級組、という特殊事情のある学年だったが、年齢73/74歳の今となつては、みんな同じ旧友、分け隔てのない歓談が続く。

幹事のひとり隣組（？）から立派なハワイアン・バンドを連れて来てくれたので、演奏、合唱、ダンスにまで盛り上がり、和気藹々。

結局、出席にはこぎ着けなかったが、アメリカやブラジル在住の3人の同級生とも久々に密な連絡が取れ



てメッセーじの交流ができ、悪ガキ時代の思い出へとエスカレートする一方、長年の社会奉仕で、「瑞宝単光賞」を受賞して皇居から帰ったばかりの友人も参加して、カラフルな会になった。

そして、大半の参加者が、もともと一緒に居たくて二次会のカラオケへ。あいにくの雨で70階からの視界は雲のみに拘わらず楽しい会でした。

## 第28回生

2011年11月12日(土) 我が母校にて『第28回生同窓会』を開催しました。福田先生・加藤先生・伊藤先生・藤田先生をお迎えし62名の参加となりました。

第28回生定番写真といえば礼拝堂前での集合写真がどうしても外せなかったので前日の雨から一転して快晴となり記念撮影を合図に校内見学会場では高校時代を思いだして楽しいひとときを過ごしました。

最後になりましたがご協力下さった、学校および事務長を始めとする諸先生方、そして六葉会の方々、心より感謝致します。

六葉会のご好意により幹事4人対

談を六葉会ホームページに掲載していただきました。(こちらも併せてご覧ください)

## 第41回生

2011年12月23日、第41回生学年同窓会を初めて開催いたしました。ご出席頂いたのは、山田武光先生、佐々木智子先生、澤章敏先生、山下直樹先生、久松俊雄先生、鈴木茂生です。

はじめに、山田先生から乾杯のご発声を頂いた後、先生方からお一人ずつご挨拶を頂きました。

およそ20年ぶりに先生方のお話を伺いましたお、表現の仕方、お話の仕方は当時のままで、とても懐かしく、同窓生はといますと、やはり当時のまま(外見も?)、賑わっていました(先生方失礼いたしました(笑))



中締めでは同窓生から先生方へ、当日撮影した集合写真と花束を贈呈させて頂いたいただき、お聞きとなりました。予想を上回る大勢の方々にご参加いただき、楽しく過ごしていただきましたようで開催してよかったと思います。今回は季節柄、会場の手配が難しく、当初の時間を変更しての開催となりましたが、第2回はいつになるのか、またどのように皆が変わっていくのか楽しみです。

最後に、お手伝い頂いた皆様、有難うございました。

## 第30回生

2012年3月10日(土)、午後2時から30回生の学年同窓会を開催しました。

伊藤孝一先生、落越道彦先生、国近高龍先生のご出席を賜り、卒業30年目の区切りの年でもあったので、80人以上の同窓生が集まり、とても賑やかに開催することができました。会場を旧短大のエテルニテで行ったので母校の見学会も開催し、楽しい一時を過ごすことができました。スタッフの皆様もお疲れさまでした。ありがとうございました。

# 親睦ゴルフ大会開催される!!

第5回

関東学院六浦中学校・高等学校卒業生親睦ゴルフ大会 [2011年11月10日開催]

## 関東学院六浦 親睦ゴルフ大会に参加して

菊地則夫 16 回生

いつも幹事の皆様の骨折りで開催している六浦の卒業生ゴルフコンペに今年も出席させていただきました。今年のキングフィールドゴルフクラブはプロのトーナメントをやったばかりのセッティングで、いっといてい難しかったです。

ゴルフをやられる方は職場関連とか友人とか所属クラブの月例とか、さまざまなゴルフコンペに出られると思います。しかしこの会はそれらとは違って参加者全員が、在学年代は違っていたり卒業して社会に出てからも顔を合わす機会がなかった人たちが集まっているにもかかわらず、同じ中学高校時代を過ごしたということで年齢差を越えて、なにか非常に身近な人々に感じるのには私だけでしょうか。

奥山先生が参加されて非常にお元氣な様子でした、もうすぐ70代になられるとお聞きしましたが先生はやはり未だに生徒には超えられない存在で総合で三位になられました。私は中高時代サッカー部に所属しており、いわゆる体育会育ちをしたのですが最近では社会生活、特に会社では年齢はあまり意識しなくなりましたが、この会では1年でも年上の先輩は相変わらず先輩でした。たまにはこのような集まりがあつて

もいいなと思います。

同期三名でのゴルフはまことに楽しいラウンドでした。疎遠になっていた同窓生と懐かしい話がはずみ、昔を思い出す作業は脳の活性化につながるような気がします。気持ちのいいキャデーさんとのラウンドで普段のラウンドとはまったく違うリラックした雰囲気でのラウンドでした。

最後にこのようなゴルフを企画・運営していただいた幹事の皆様と、すばらしいコースを用意していただいたキングフィールドゴルフクラブの皆様に感謝いたします。



第7回

## 関東学院三春台校・六浦校 卒業生親睦ゴルフ大会のご案内



第6回大会 2011.6.9

お一人でも参加できます。  
振るってご参加ください。

**参加資格** 両校卒業生・先生(現役・退職問わず)

**会 場** キングフィールドゴルフクラブ

(休日プレーにつきセルフプレー)

**会 費** 12,000円(プレーフィ、パーティ費)

昼食・ドリンクは自己負担となります

**日 程** 2012年 6月4日(月)

●連絡先(武田まで)

▼電 話 045(321)5345

▼携 帯 090(3515)1395

▼ファクス 045(324)0242

■振込先

横浜信用金庫 本店 普通預金 713124

名義人 関東学院三春台・六浦親睦ゴルフ

幹事 武田 正雄 ※お振込みは事前をお願いいたします。



# 母校に集合!! 六浦祭とホームカミングデー

**2012年11月2日(金)～3日(土・祝)**

今年度も例年の通り、生徒会主催の六浦祭が開催されます。中学生の展示や各クラブの出し物など沢山の催し物が準備されています。生徒たちの模擬店も賑やかに出店されます。

**今年も3日(土・祝)に第8回ホームカミングデーが開催されます。**  
懐かしい先生方も大勢ご招待しておりますので、是非お出かけ下さい。

**式典：11月3日(祝) 午前11時頃より**  
**茶話会：正午頃より**

■日程や場所は変更する可能性もあります。ホームページでご確認いただくか、ご来校前に学校にお問い合わせ下さい。(045-781-2525)

六浦祭を楽しみながらホームカミングデーにご参加いただき、母校での楽しいひと時をお過ごし下さい。いつものように「六葉会の部屋」も設置します。卒業アルバムを見ながら一息ついてください。皆様のお越しをお待ちしております。



## 会報のバックナンバーはホームページで

毎年、六葉会会員の皆さんにお届けしている「六葉会会報」は六葉会ホームページから過去に発行された15年分の会報をご覧になることが出来ます。以前の会報がご覧になりたい方は是非、六葉会ホームページをご覧ください。「六葉会」→検索でご覧になれます。

六葉会では会報は一部をデジタル化してお知らせすることを視野に入れた検討中です。

**六葉会ホームページには会報バックナンバーの他に次のような記事も載っています。**

- 1 恩師の動画**  
六葉会ホームページの「ホームカミングデー」→「恩師の動画」  
懐かしい先生方にインタビューをしました。
- 2 同期会のお知らせ**  
同期会を開催するときには六葉会にご一報ください。  
お知らせをトップページに掲載させていただきます。
- 3 六葉会の日程**  
常任幹事会の日程も表示してあります。  
議事録も掲載してありますので会議の様子もわかります。ご協力いただける方は是非お出かけください。

※会報の印刷は当分の間、継続していきますが、六葉会で進めている会報のデジタル化にご理解をいただき、六葉会ホームページをご覧くださいませよう願いたします。

六葉会ホームページからご連絡下さい。

1. 住所録を用意します。  
2. 通信費の補助金を差し上げます。

クラス会・学年会などを開くとき、六葉会は役に立ちます！

| 5組     | 4組    | 3組    | 2組     | 1組 |
|--------|-------|-------|--------|----|
| 加畑 裕美子 | 鈴木 小嶋 | 春日 雄貴 | 服部 あけみ |    |
| 網島 駿介  | 林 美紗  | 橋本 高原 | 召田 正吾  |    |
| 愛民 亮佑  | 草 希帆  |       |        |    |

**第60回生の六葉会学年幹事の皆さんをご紹介します。**

■ 関東学院六葉会 〒236-8504 横浜市金沢区六浦東1-50-1 TEL.045-781-2525

印刷:株式会社エイコープリント 2012.4

# 人になれ 奉仕せよ

六葉会では、「人になれ 奉仕せよ」の学院建学の精神に基づき、在学生達が自主的に行うアワード活動を支援して行くことを決定しました。アワード活動とは、他の人の良い所を見つけ、表彰して行こうという活動です。実際の取り組みは、これからですが、今年、3月に卒業した卒業生の中に6年間無遅刻、無欠席の生徒がいたので、六葉会で記念バッジを作り贈らせて頂きました。こんなことが、アワード活動のきっかけになることを期待しています！



同窓生の皆さん！  
「人になれ 奉仕せよ」

いつまでも心に残る一生の宝物ですよ！

そんな母校で、皆さんのお子さんやお孫さんを学ばせてみませんか！

中学1年生の募集が、原則ではありますが、1年生から3年生で欠員が出た場合は、毎学期、編入試験を行っています。

お気軽にお問い合わせください。そして、いつでも学校見学にいらして下さい。こちらからお待ちしております。

心躍る時間、未来へ続く道

**関東学院六浦中学校・高等学校**

〒236-8504 横浜市長沢区六浦東1-50-1 TEL.045-781-2525